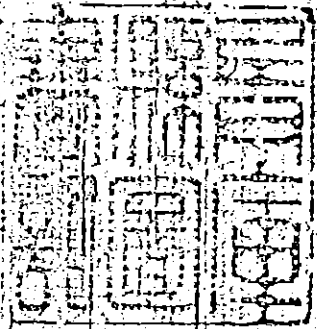


兵庫縣漁業慣行錄

淡水漁業之部

卷之廿三



兵庫縣漁業慣行録卷之二十三 淡水漁業之部

但馬国美含郡

矢田川

第一章 漁制

第一款 捉類

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁税ニ関スル事

大野村

本村ハ從來漁業ナクト雖モ納税セシトナシ

三谷村

銚鱒鮎鹹漁業ハ往古ヨリ之ヲ營ムモ農間ノ餘業ナ

シハ納税セシトナシ

加鹿野村

享保四年頃川役ト唱ヘ銀四十三匁ヲ年々納メ維新后
尚續ヒテ其額ヲ納メシカ明治八年ヨリ廢稅トナレリ

向室村

鮭漁業ハ寛文六年ノ頃ヨリ鮭役トシテ銀六匁四分又
川役トシテ銀四匁ヲ年々納メ維新後尚其額ヲ納メシ
カ明治四年ヨリ廢稅トナレリ

油良村

鮭漁業ハ寛文六年ノ頃ヨリ鮭役トシテ銀二十五匁又
川役トシテ銀四匁ヲ年々納メ維新後尚續ヒテ其額ヲ
納メシカ明治四年ヨリ廢稅トナレリ

森村

鮭漁業ハ享保二年頃ヨリ鮭役トシテ銀二十五匁又川
役トシテ銀六匁ヲ年々納メ維新後尚續ヒテ其額ヲ納

シカ明治四年ヨリ廢稅トナレリ

矢田村

鮭鮎鱒等古來ノ漁業ナルモ納稅ヒシトナレ

七日市村

鮭漁業元禄年間ヨリ鮭役トシテ米一斗宛納メ來リシ
カ明治八年ヨリ廢稅トナレリ

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

大野村

本村字柿谷口ヨリ字森谷前ヲ經テ推口瀨ニ至ル十丁ノ間本村ノ漁業場トス

三谷村

南、本村字象々鼻吾丁山ノ麓ヨリ北、加麻野村境字上原ニテ凡四拾丁ノ間本村ノ漁業場トス

加麻野村

南、三谷村境本村字推口森ヨリ北、守柄村境迄凡拾丁餘ノ間本村漁業場トス但鉛漁場ハ南、八原村ヨリ北、矢田村

至凡三里ノ間ニテ各村入會漁場トス
間室村 油良村

南、守柄村境ニ本松鼻ヨリ北、矢田村地先川口ニ至凡
拾五丁ハ本村ノ漁場トス但鮎鰈漁ハ各村入會トス
森村

南、加麻野村字掘ヶ森ニアル井堰ヨリ北、矢田村川口ニ
至凡九ニ拾八丁ハ本村ノ漁場トス

鮎鰈業ハ南、三谷村ヨリ北、矢田村ニ至凡九ニ拾丁ノ間
本村ノ漁場トス

鮎鰈漁場ハ加麻野村ニ同ニ

矢田村

鮎鰈鮎漁ハ南、森村字上河原鼻ヨリ本村字川尻ニ至凡
九ニ十丁ノ間ニテ森村ト入會漁場トス

七日市村

南、本村字千ヶ岩ヨリ矢田村字川尻ニテハ鮎鰈ノ漁場
トス

第二節 仲間加入ノ仕来

第三節 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

大野村

他村ノ者本村漁場へ入漁ヲ乞フモ之レヲ許サ、ルノ
慣例ナリ

矢田村

他村ノ者本村専漁場へ新ニ入漁セントスルハ場料
トシテ其捕獲漁類ノ一割ヲ徴收シテ之レヲ許ス而シテ
該金ハ村費ノ幾分ヲ補助スルナリ

第四節 販賣ノ仕方

大野村

捕漁セシ魚類ハ漁夫ノ自家ニ於テスルカ或ハ近隣ニ
送り即金ヲ以テ販賣ス

三谷村

捕漁セシ魚類ハ些少ノキハ自家ニ於テ販賣シ多獲ノ
井ハ豊岡地方ニ擔キ出シテ販賣ス代金取引ハ總テ即
金トス

加麻野村

向室村 油良村 森村

捕漁セシ魚類ハ自家ニ於テ即金ヲ以テ販賣ス

夫田村

捕漁セシ魚類ハ近隣ノ小賣商或ハ下ノ濱村ノ仲買人
ニ即金ヲ以テ販賣ス

第三項 雜事

大野村

祝ヒ 漁夫毎年始メテ出漁セントスルキハ漁始メト
称ハ我神ハ酒ヲ捧リ此際ニハ漁業仲間ハ勿論朋友
ヲモ招キ酒宴ヲ開キ多ク獲ルヨウトシテ祝ヒヲ
ナス古来ノ例ナリ

祭祀禁忌 漁夫信仰スル神ハ我神ニシテ漁家各之レ
ヲ祭ル具祭日ニハ何レモ神酒ヲ捧ケ相應ノ祭事ヲ
表セリ○漁戸ニ産婦アルキハ産血祭ト称シ漁者ハ
二週間交通セサル例ナリ蓋シ其信仰スル処ノ我神
産穢ヲ忌ムト云フニ依レリ

三谷村

祝ヒ 毎年十月廿日我神祭ト称シ漁者相集リ祝宴ヲ
開ケリ

佳味、時トス

鮎

浮化后二ヶ月ヲ經レハ凡二寸ニ如シ、四五ヶ月ニ至テ漸ク五六寸トナリ、此ノ時ハ凡五拾目其長凡八寸許ノモノアリ、トス中ニ最モ佳味ナリ、炎暑ノ時候トス、三谷村ニ調

鮭

浮化後二ヶ月ヲ經テ凡一尺ニ至ル、乃至凡五拾目トス、一尺七八寸ノ量ニ至ルニ至ル之ヲ最モ佳味ノ時トス、大野村ニ調

第二款

漁期

第一項

期節

捕魚ノ期節左ノ如シ

品名	期節	周年	鱒		鮎	
			自至	自至	自至	自至
大野村	期節	周年	自二月至五月	自四月至八月		
三谷村	期節	周年	自一月至三月	自七月至十月		
加茂野村	期節	周年	自二月至四月	自八月至十月		
間室村	期節	周年	自二月至三月	自七月至十月		
油良村	期節	周年	自二月至三月	自七月至十月		
本林村	期節	周年	自二月至四月	自七月至十月		
矢田村	期節	周年	自二月至三月	自六月至三月		
七日市村	期節	周年				

第二項

氣象

鮭漁ハ漁期中氣候天氣晴朗ニシテ河水透明ナル日ヲ以テ最モ良トス、大野村以下同シ、○鱒漁ハ例年二月ヨリ四月迄ノ間降雨満水ノ後天氣快晴ノ日ヲ良トス、○鮎漁ハ

例年四月ヨリ十月エテ、間降雨満水ニ其後未々平水ト
 ナラサル前天氣快晴風穏ニテ水色透明十日ヲ好ト
 ス若シ涸水ナルキハ皆深淵ニ進去ニ捕漁スルヲ難ニ○
 鹹澳ハ一月ヨリ五月迄、間天氣晴朗河水透明十日ヲ
 良トス

第三項

群来ノ前兆

第四項

去来ノ期節及方向

鞋ハ例年十月頃ヲ来期トシ十二月ヲ去期トス三谷村調
 以下○鱒ハ氣候ニヨリ遲速ヤレド例年立春頃ヲ来期ト
 シ八十八夜頃ヲ去期トス○鮎ハ例年四月ニ来リ十一月
 ニ去ル

第三款

漁場

矢田川ハ水源ヲ本国七美郡秋岡村ニ發ニ同郡和田村ニ
 至リ兔塚川ト相會ニテ本郡ニ入り北流ニテ下濱村ニ至
 リ海ニ注ク延長ハ里餘川幅ハ水源ヨリ下凡五里即チ七
 美郡長瀬村ニ於テ二十五間又流末ヨリ上凡十五丁即チ
 本郡森村ニ於テ四拾間トス
 抑本川ノ水源ハ西南播因但ノ境隅ニ跨リタレ城々々ル
 高山幽谷ニニテ涵養十分ナリ水色ハ概テ清流ナルモ流
 末ヨリ上凡十二町ノ間ハ半濁ナリ流勢ハ源頭ヨリ下凡
 三里ヨリ即チ七美郡高津村ニテハ概テ急流ニニテ水底ハ
 岩石ナリ是ヨリ下凡三里即チ同郡境村ノ邊迄ハ緩急相
 半ニ水底ハ砂石ナリ又是ヨリ下凡二里即チ本郡森村邊
 迄ハ急流ニニテ水底ハ礫石ナリ以下流末ニテハ概テ緩

流ニ至テ水底ハ礫石ナリ但流末ニ至ルニ隨ヒ泥土多ク
 本川沿村ノ渾葉區域ハ左ノ如ク但渾撈ノ主ナルモ
 鮭ニ至テ其盛渾地方ハ加鹿野村流末ナリトス
 大野村

鮭、鱒、鮎、鰻、渾場ハ本川字栢谷口ヨリ字推ケ森ニ至ル迄
 間トス

三谷村

鮭、鱒、鮎、鰻、渾場ハ本村字象ケ鼻吉山ヨリ加鹿野村境
 字上原ニ至ルニテ、間トス

加鹿野村

鮭、鱒、渾場ハ南三谷村境字推ケ森ヨリ北守栢村境迄
 間トス

鮎、鰻、渾場ハ南ハ原村ヨリ北矢田村迄、間トス

間室村 由良村

鮭、鱒、鮎、鰻、渾場ハ南、守栢村境ニ本松鼻ヨリ北、矢田村地
 先川口迄、間トス

森村

鮭、鱒、渾場ハ南、本村字上、河原鼻ヨリ北、矢田村迄二十丁
 間トス

鮎、鰻、渾場ハ加鹿野村ニ全シ

矢田村

鮭、鱒、鮎、渾場ハ森村字上、河原鼻ヨリ本村字川尻迄、間
 トス

七日市村

鮭、魚ハ本村字子ゴ岩ヨリ矢田村字川尻迄、間ニ於テ
 渾ス

第四款 入會漁船ノ数

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具ノ現数左ノ如シ

漁具名	鉞網鉞鞋 _全 数	鉞鞋 _全 数	鞋置 _全 数	鞋袋 _全 数	鞋罾 _全 数
大野村	五	四			二
三谷村	三	五	三	二	五
加鹿野村	二六	六	三〇	六五	一三
間室村	六	三	二	七	三
油良村	六	三	二	七	三
森村	一七	一二	二	二五	五
矢田村	三		一		五
七日市村	五		一五	一	八
合計	七二	三三	五五	一二五	四四

第六款 漁法

鰍漁

打網 曇天又ハ時雨、降ル片群ヲ成ニテ深淵或ハ瀬
 降等ヲ游泳スルヲ覘ヒ静カニ近寄り詠網ヲ投ケ込
 三テ之レヲ捕獲スルモノトス 三谷村調
 ハ子リヨ玉網 九月下旬水波静穏ノ所ハ柴漬ヲ沈メ
 置ケハ寒冷ヲ増スニ從ヒ詠魚ハ柴中ハ群集スルヲ
 寒朝ハ子リヨ玉網ヲ以テ其下面ニ入レ而シテ其柴
 ヲ拂ヒテ潜マレ所、魚ヲ逐ヒ出シテ之レヲ捕獲ス
 ルナリ 三谷村調

鱒漁

打網 漁期ニ至ルハ深淵ヲ搜索ニ石或ハ竹等ヲ以テ
 水面ヲ打テ詠魚ヲ浅瀬ニ逐ヒ出シ詠網ヲ以テ漁ス

鮎漁

ルナリ 査三谷村調

ハ子口玉網 先ツゴロキ以テ川中ヲ引キ廻シ鮎ヲ

駈ル鮎ハ驚愕シテ水上ニ飛揚スルヲ覗ヒゴロキ後

口ヨリ受ケ抄フモトス 査三谷村調

打網 漁期ニ至シハ浅瀬ニ打テ網裏ニ潜ミタルヲ

手口ヲ其網ヲ押ハ捕フルモトス其他鷄繩ヲ用ユ

ルナリ 揖西郡ニ同シ 査三谷村調

鮭漁

打網 鱒漁法ニ同シ

置立網 川中深处ノ岩際ニ張り置キ石ヲ投シ或ハ竹

等ヲ以テ水面ヲ狩リ打ツキハ鮭魚ハ潜所ヨリ驚キ

出テ、談網ニ掛ルモトス 査三谷村調

袋網 漁期ニ至レハ午後六時ヨリ河中ニ張り置キ翌

日午前六時頃又ハ午後十二時頃一回引キ揚クルモ

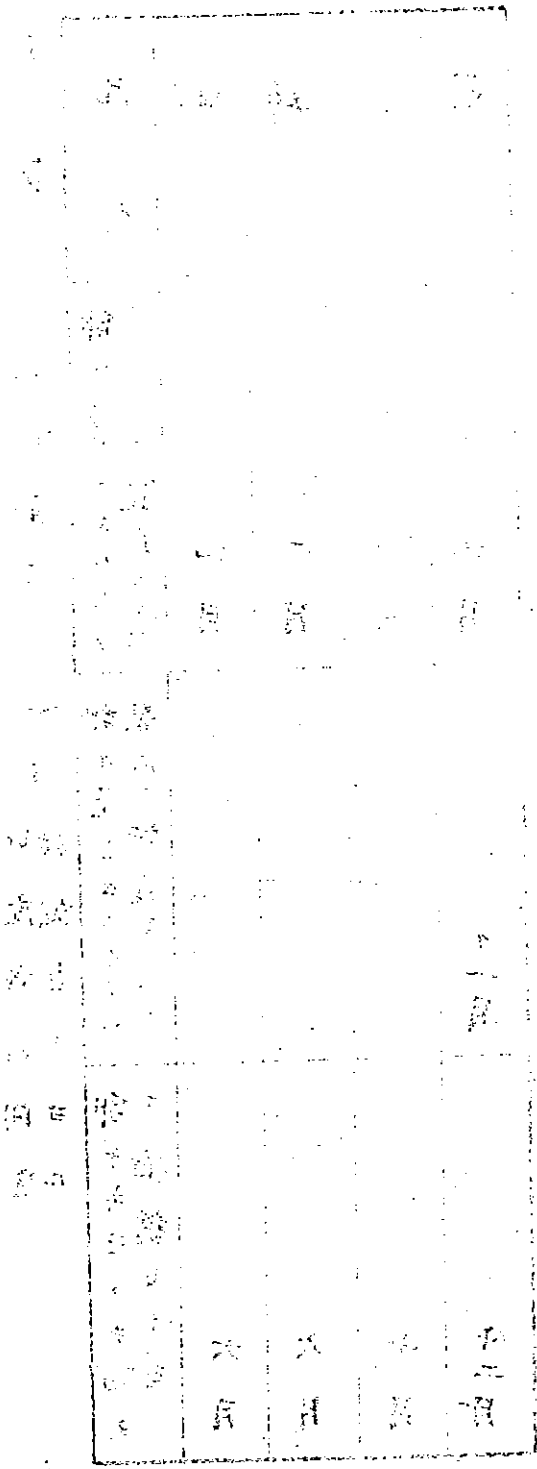
トス 査三谷村調

第三章 蕃殖

第一致 生産期節

水族ノ蕃殖スル期節左ノ如ク
如鹿野村ヨリ
如調査ニヨリ

品名	産期	産期	産期	産期
卵ヲ孕ミタルモノ ヲ捕獲セシム	四月	二月	七月	九月
卵ヲ孕ミタルモノ ヲ捕獲セシム				十一月
卵ヲ孕ミタルモノ ヲ捕獲セシム	六月	六月	十月	十二月



第二款 生産場
 第三款 有害物

水獺ハ魚ヲ捕食セリトモテ魚群ヲ追ヒ散ラスヲ以テ往々
 漁業ヲ害ス 大野ヨリ調

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

大野村

本村漁業ハ明治元年頃ニ比スレハ魚類ノ蕃殖些少ト
ナリ頗ル衰頹ノ景況ニシテ僅カニ農業ノ傍ラ之レニ
從事シ糊口ノ一助トナスニ過キサレナリ

三谷村

本村漁業ハ農間ノ餘業ニシテ著シキ盛衰ナレ

加藤野村

本村漁者拾餘名マルモ皆農事ノ餘暇ニ之レヲ営ムモ
ノモリ目下ノ景況明治元年頃ニ比スレハ漁者ハ四五
名増加スト蚤モ牧利ハ却テ減額ノ姿ナリ

間室村

森村 矢田村

本村ハ農間ニ漁業ヲ営ムモ、ニシテ著ク盛衰ナシ
 七日市村
 本村漁者ハ専ラ海漁ナシ、傍ラ又河漢ナシセリ然レ
 且近來漁業ノ衰頽ニヨリ何レモ農業ヲ兼テカレモノ
 ナキニ至レリ
 以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚左表ヲ掲ケテ其一般ノ状
 ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	建網類 数	敷網類 全	抄網類 全	掩網類 全	又釣類 数	漁民 数
大野村			四	五	二	二
三谷村	三	二〇	五	三	五	五
如鹿野村	三〇	六五	六	二六	一三	一三
間室村	二	七	三	六	二	三
油良村	二	七	三	六	二	三
森村	二	二五	二	一七	八	五
矢田村	一			三	一	五
七日市村	一五	一		五	八	八
合計	五五	一二五	三三	七一	四一	四一

漁業者、種別左、如左
營業種別

種別	鮫網漁者	鮎網漁者	鱒網漁者	鮭網漁者	鮭藉漁者
大野村		五	二		二
三谷村	五	五	五	五	五
加鹿野村	一三	一三	一三	一三	一三
間室村	二	二	二	二	二
油良村	二	二	二	二	二
森村	八	八	八	八	八
矢田村			一	一	一
七日市村		八	五		
合計	三〇	四一	三三	三八	三三

兵庫縣漁業慣行録卷之二十三 終

浦中協議ノ上臨時魚市場ヲ開キ該他船ノ捕獲セシ魚ヲ市場ニテ賣却シ其賣價ノ一割三分ヲ本浦ヘ納メシムルトニ右地方漁者ト規約ヲ結ビ右三四兩月ノ間ハ自由ニ漁業ヲ營ヒシムル事トナセリ

鯉漁場ハ阿波国地網代ニ迄至リ又紀州ノ方ヘハ其海岸ヨリ四里ヲ隔タル所迄トス舊藩時代ニハ他ヨリ未漁セザリシカ維新後諸国ヨリ入漁スルモノ年々増加シ近年數十艘ノ多キニ至レリ

舊藩ノ時ニ在テハ村方ト浦方ノ區別アリ浦方ノ者ハ如子人ト唱ヘ村方ノ者ハ海濱ニ出テ漁業スルトナリ得ス浦方ヨリ村方沿海ノ海面ヲ特占シテ漁業ヲ自由ニスルノ權アリタリ蓋シ是アルモノハ如子役金ヲ收納セルニヨル

兵庫縣漁業慣行録

淡水漁業之部
卷之廿四

兵庫縣漁業慣行録卷之二十四
淡水漁業之部
淡路國三原郡

三原川

湊村

第一章 漁制

第一款 捉類

第二款 規約及慣例

第一項 保護ニ関スル事

第二項 漁業ニ関スル事

第一節 漁權

瑞井村字三ツ合以下河口ニ至ル間ハ當村河漁場ニシテ
漁業ニ際シ他ノ遊漁者ニシテ妨害トナルヘキ漁具ヲ使
用スルモノアルハ之ヲ禁カシムルノ權アリ

第二章 漁撈

第一款 種類

第一項 品名

産出ノ水産物品名左ノ如シ
鰯^{イナ}魚^ナ 沙^ハ魚^ビ 鰻^{ウナギ}

青^{アヲ}海^ヲ苔^リ

第二款 漁期

第一項 期節

捕魚採藻ノ期節左ノ如シ

沙魚 自十七二月

鰻 周年

青海苔 自翌年二月

第三款 漁場

三原川ハ水源ヲ本郡上田村ニ發シ本村ニ至テ海ニ注ク
 延長三里十五丁ニシテ川幅ハ水源ヨリ下凡一里半即チ
 天野村及ヒ流末ヨリ上凡二十丁即チ瑞井村ニ於テ各二
 十間トス水色ハ水源ヨリ掃字村邊迄凡二里半ハ清流ニ
 シテ以下流末迄凡一里ハ半濁流ナリ其流勢ハ水源ヨリ
 下凡二里半即チ掃字村邊迄概子急流ナリ水底ハ渾テ砂
 石ナリ以下流末迄凡一里間ハ概子緩流ニシテ水底ハ渾
 テ細砂或ハ泥土ニ屬ス
 漁場ハ鰯魚沙魚青海苔ハ瑞井村以下河口ニ至ル十一丁
 十間ノ間又鰻ハ字口ノ尻ニ於テス

第四款 入會漁船ノ數

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具現數 明治十九年六月十九日調 左ノ如シ

鰯魚打網 三疊

沙魚釣 三本

鰻 搔 三本

第六款 漁法

鰯魚漁

打網 赤穂郡千種川鰯魚打網ニ全シ

沙魚漁

釣 白ラサ鰻ヲ餌料トナシテ釣漁ス

鰻漁

鰻搔 川口ノ千馮ニ拳大ノ石ヲ累積シ置キ數日ヲ経

過シ千潮ノ際之ヲ除キ潜伏シタルモノヲ認メテ具

ヲ以テ搔キ捕フルナリ

第三章

繁殖

第四章

漁民

第一款

營業ノ景況

水川ノ漁業ハ概子遊漁者ノ占ムル所トナリタル景況ニシテ眞ニ從事スルモノハ僅ニ三四名ニ過キス故ニ確定ノ統計ヲ得サルモ鰯魚ニ沙魚ニ決シテ些少ノ産額ニ非サルナリ依テ今遊漁者ノ濫漁ヲ防カハ必ス繁盛ノ域ニ進ムヘシト信セリ尙左ニ其現状ヲ示スヘシ

搔網類

三疊

手釣類

三水

叉釣類

三水

漁民

四人

第二款 營業ノ種別

漁業者ノ種別左ノ如シ

鰯魚打網漁者 三人

沙魚釣漁者 三人

鰻搔漁者 三人

兵庫縣漁業慣行録卷之二十四 終

兵庫縣